

防災マイスターに44人挑戦

育成講座 地域のリーダーへ期待
開講式



開講式に引き続き、片岡教授（右）から地震・津波災害について学ぶ受講生

弘前

弘前市は9月28日、地域防災のリーダー役となる弘前市防災マイスター育成講座開講式を開いた。今年度は大学生や社会人44人が受講し、地震や津波への備え、災害ボランティア活動、避難所設置などについて学ぶ。

市は2012年度から育成講座を開いており、23年度までにマイスター認定者

は432人、うち防災士は389人誕生している。

市役所で開かれた開講式であいさつした堀川慎一総務部長は近年、地震や降雨災害が頻発していることに触れ、「大規模な災害時には、行政からの共助が行き届くまでに時間がかかることが想定される。その間、自助、そして共助が非常に重要となる」と指摘。受講生が多岐にわたる講座を通じて今後、地域防災活動の

リーダーとして活躍するのを期待した。

引き続き初回の講座が開かれ、弘前大学大学院理工学研究科の片岡俊一教授が、地震・津波災害とその備えについて解説した。

講座は来年1月11日まで、延べ6日間の日程。防災士養成研修講座に認定されており、受講終了時には防災士資格取得試験の受験資格が付与される。試験は来年2月に実施される予定。
(齋絢一郎)

※この画像は当該ページに限って
陸奥新報社が利用を許諾したものです。
[問合せ先]弘前大学理工学研究科
E-mail:r_koho@hirosaki-u.ac.jp